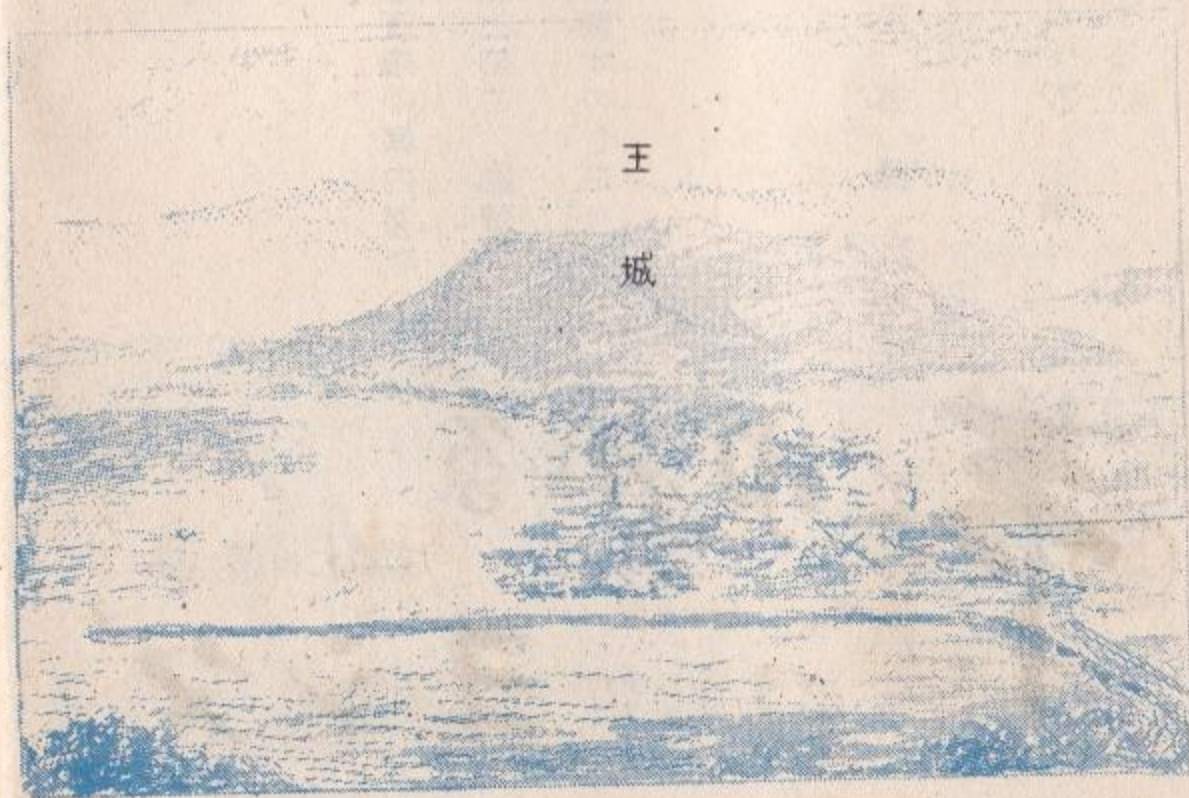


秋晴れや一舟もなき松浦渚



## 松浦の名のよこし

今から十二百五十年位前に 日本書記と云う本が出来ました。  
その中に神功皇后が、熊襲征伐に来られた時、現在の王島に来ら  
れ、針を曲げて釣針とし、着物の糸を抜いて糸とし、川の中の石に  
立って、

「この度の戦いに勝つなら、川の魚よこの釣を食え」と祈って、釣  
糸を上げられると、鮎がかりつた。それで皇后は大変喜ばれ  
「これはめづらしい」といわれ、その他を  
「梅豆羅の国」と名付けられた。それが段々変化して「まつら  
し」と云うようになったそうです。然し中国の古い本には「末盧  
し」と書いてあるがあるので、皇后がお出でになる前から「まつら  
し」と云っていたのではないかと云います。

—— 万葉集より

百日しも行かぬ松浦路今日行きて明日は来なむを向かさせられる

足姫神の命の魚釣らすと御立たしと石を誰見き

松浦川王島の浦に若鮎釣る妹を見らん人のともしき 大伴旅人

人皆の見らむ松浦の王島を見ずてや我は恋ひて居らむ 同

服地と洋装



服地の



本店 唐津市呉服町 支店 大手通り